「キャリア・パスポート」を活用した授業例②

1. 高等学校　特別活動
2. ２学年　ホームルーム活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現」

エ 主体的な進路の選択決定と将来設計

1. 題材「自己理解を深め、進路について考える」

▶自分自身の興味・関心などの個性を理解した上で、自分の将来の生き方や生活について見通しをもち、進路選択を行う。

1. 事前の指導（活動）

▶これまで作成した「キャリア・パスポート」をもとに、今学期の自分自身の成長や今後の方向性（自分自身の進路や進路実現に向けた具体的な手立てを含む）等を自己評価する。

1. 本時の学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童生徒の活動 | 指導の留意事項 |
| 導入 | ▶ねらい「自分を知り、進路を見直す」についての確認  （これまでの「キャリア・パスポート」を整理し、自分の興味関心等の個性を理解し、自分の将来の生き方や生活について見通しをもち、進路選択を行う。）  ▶この活動をもとに三者面談を行うことについての確認 | ▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。 |
| 展開 | ▶これまでに作成した「キャリア・パスポート」（「学期を見通し、振り返る」「学校行事」等の様式）をもとにグループで発表し合い、相互評価を行う。さらに、生徒自身が行うプレゼンテーション（「私のプレゼンテーション」）の原稿を作成する。  ▶作業途中で各２分間のプレゼンテーションの練習をする。  （グループで発表し合い、相互評価をくり返す。） | ▶取組がうまく進んでいない生徒に対して、教員が個別の支援を行う。 |
| 終末 | ▶（これまでの「私のプレゼンテーション」の作成や話合い活動を通じて）二者面談や三者面談という進路選択の場面に向けた決意と具体的な進路への目標設定を意思決定する。 |  |

1. 事後の指導（活動）

▶【「生徒が話す三者面談」】「キャリア・パスポート」を活用して、まとめた今学期の自分自身の成長や今後の方向性（自分自身の進路や進路実現に向けた具体的な手立てを含む）等について、面談の中でクラス担任、保護者にプレゼンテーションを行う。

▶面談中に感じたことや考えたことを踏まえ、次の「学期を見通し、振り返る」様式を作成する。

1. 実施時期

７月中での実施を想定している。（２年次に限らず毎学年実施することも考えられる。）

また、上記の授業例をもとに、次のような取組も考えられる。

例：「生徒が話す二者面談」

作成した「キャリア・パスポート」をもとに、自分なりに取り組んできたことやこれから取り組もうと考えていることについて、クラス担任に対して生徒が自分の言葉でプレゼンテーションを行う。